



**平成22年度(平成23年3月期)
第2四半期(上半期)
決算説明会**

平成22年11月2日

代表取締役社長 手代木 功



塩野義製薬株式会社



将来見通しに関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。その情報は、現時点において入手可能な情報から予測した見込み、リスクを伴う想定、実質的に異なる結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利や為替レートの変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に既存および開発中の製品に関連した見通し情報に存在します。それらには、臨床試験の完了ならびに中止、規制当局からの承認取得、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念の発生、技術の進歩、重大な訴訟における不利な判決、国内外各国の保健関連制度の改革や法規制などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
また、既存製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



平成22年度 第2四半期決算の概要

平成22年度 第2四半期決算



経営成績（連結）

（単位：億円）

<連結>	22年上期 予測	22年上期 実績	対上期 達成率 (%)	21年上期 実績	対前年同期 UP率 (%)	増減
売上高	1,428	1,433	100.4	1,326	8.1	107
営業利益	197	192	97.6	178	7.8	14
経常利益	187	176	94.6	163	7.9	13
四半期純利益	110	68	62.4	115	△40.8	△47

注：決算期の変更により、22年上期実績は、米国子会社について、22年1月～22年9月の9ヶ月分を計上

平成22年度 第2四半期決算



財政状態およびキャッシュ・フローの状況(連結)

(単位:億円)

<財政状態>	22年9月期 実績	22年3月期 実績	増減
総資産	5,167	5,407	△ 240
純資産	3,263	3,419	△ 156
自己資本比率	63.1%	63.2%	△ 0.1%
1株当たり純資産	973円	1,019円	△ 46円

(単位:億円)

<キャッシュ・フローの状況>	22年上期 実績	21年上期 実績	増減
営業活動によるC/F	309	206	103
投資活動によるC/F	△ 163	△ 52	△ 111
財務活動によるC/F	△ 131	80	△ 211
計	△ 9	237	△ 246
現金等期末残高	967	753	-

平成22年度 第2四半期決算



主要製品売上高（連結）

（単位：億円）

	22年上期 予 測	22年上期 実 績	対 上 期 達成率 (%)	21年上期 実 績	対 前 年 UP率 (%)	対 前 年 増 減
国内医療用医薬品	749	751	100.3	747	0.6	4
クレストール	145	137	94.4	115	18.7	22
イルベタン	38	33	86.9	12	170.6	21
サインバルタ	8	9	110.9	-	-	9
戦略3品目合計	191	179	93.6	128	40.2	51
オキシコンチン	47	48	102.0	42	13.6	6
フィニボックス	21	18	85.8	18	2.8	0
ディフェリン	19	15	76.8	10	43.5	5
ピレスパ	14	13	89.6	6	107.5	7
ラビアクタ	0	0	-	-	-	0
戦略8品目合計	292	272	93.1	203	33.6	69
フロモックス	90	101	112.4	113	△ 10.5	△ 12
リンデロン等外用	48	50	104.9	51	△ 1.9	△ 1
フルマリン	36	39	108.3	47	△ 17.0	△ 8
クラリチン	34	31	90.2	34	△ 10.5	△ 3
塩酸バンコマイシン	22	26	118.4	34	△ 24.3	△ 8
輸出/海外子会社	269	260	96.8	239	9.0	21
シオノギInc.	226	210	92.9	183	14.3	27
ドリペネム	18	25	138.0	29	△ 14.6	△ 4
製造受託	15	18	121.7	34	△ 46.8	△ 16
一般用医薬品	29	28	97.9	30	△ 4.0	△ 2
診断薬	13	15	112.8	16	△ 6.1	△ 1
ロイヤリティー収入	343	348	101.7	240	45.3	108
クレストール	325	328	100.8	225	45.3	103
その他	10	12	118.0	21	△ 43.7	△ 9
合計	1,428	1,433	100.4	1,326	8.1	107

平成22年度 第2四半期決算

損益計算書（単体）



（単位：億円）

	22年上期 予 測	22年上期 実 績	対 上 期 達成率 (%)	21年上期 実 績	対 前 年 UP率 (%)	対 前 年 増 減
売 上 高	1,179	1,203	102.1	1,083	11.1	120
（ロイヤリティー収入）	(343)	(348)	(101.7)	(240)	(45.3)	(108)
売 上 原 価	27.7 (39.0)	28.0 (39.4)		29.5 (37.9)		
	326	337	103.4	320	5.3	17
売 上 総 利 益	853	866	101.6	763	13.5	103
販 売 費・一 般 管 理 費	49.7	49.7		54.9		
	586	597	102.0	594	0.5	3
販 売・管 理 費	340	339	99.7	336	0.7	3
研 究 開 発 費	246	258	105.1	258	0.2	0
営 業 利 益	22.6	22.3		15.6		
	267	268	100.7	168	59.3	100

平成22年度 第2四半期決算

米国事業の業績内容



(単位:百万ドル)

	22年上期 予測*	22年上期 実績*	対上期 達成率(%)	1-3月 実績	4-6月 実績	7-9月 実績
売上高	248 (226億円)	235 (210億円)	94.8 (92.9)	110 (101億円)	56 (51億円)	69 (58億円)
売上原価	53 (48億円)	56 (50億円)	105.7 (104.2)	18 (16億円)	23 (21億円)	15 (13億円)
販売費・ 一般管理費	222 (203億円)	214 (191億円)	96.4 (94.1)	76 (70億円)	83 (76億円)	54 (46億円)
営業利益	△ 27 (△25億円)	△35 (△32億円)	— (—)	16 (15億円)	△51 (△46億円)	△1 (△0億円)
特別損失	L 25 (L 22億円)	L 72 (L 65億円)	— (—)	— (—)	L 25 (L 23億円)	L 47 (L 42億円)

(*22年1~9月の9ヵ月分)

<米国事業の状況>

- 業績の正常化に向けて、販売品目および費用構造の見直しを実施
 - 販売ポートフォリオの合理化のため、販売品目の見直し、開発品の絞り込みを実施
 - プライマリケア領域の営業員および販売・マーケティング部門の要員の削減
 - 管理部門および研究開発部門の要員についても削減
- 上記の施策の実施に伴い、特別損失が発生
 - 人員削減に関連する費用 約33億円
 - 販売中止品について無形資産の減損 約31億円

平成22年度 第2四半期決算

損益計算書（連結）



（単位：億円）

	22年上期 予 測	22年上期 実 績	対 上 期 達成率 (%)	21年上期 実 績	対 前 年 UP率 (%)	対 前 年 増 減
売 上 高 (ロイヤリティー収入)	1,428 (343)	1,433 (348)	100.4 (101.7)	1,326 (240)	8.1 (45.3)	107 (108)
売 上 原 価	26.2 (34.5) 374	27.2 (36.0) 390	104.4	27.8 (33.9) 368	6.0	22
売 上 総 利 益	1,054	1,043	99.0	957	8.9	86
販 売 費・一 般 管 理 費	60.0 857	59.3 850	99.3	58.8 779	9.2	71
販 売・管 理 費	574	569	99.3	500	13.9	69
研 究 開 発 費	283	280	99.3	279	0.6	1
営 業 利 益	13.8 197	13.4 192	97.6	13.4 178	7.8	14



上期の振り返り

◆ 国内医療用医薬品

- 薬価改定により平均6.1%の引下げを受けたが、医療用医薬品全体で対前年を上回り、上期の計画を達成
- 戦略3品目計、戦略8品目計は、それぞれ対前年40.2%、33.6%の増加

◆ 米国事業

- Shionogi Inc. 設立により、米国事業のリーダーシップが明確化し、より迅速な意思決定とより効率的な組織運営を目指す
- 業績の正常化に向けて、販売品目および費用構造の見直しを実施

◆ 研究開発・ライセンス

- S-349572（HIV感染症）が、フェーズ IIb において良好な結果
- ライセンス活動も、Stallergene社からの抗原特異的舌下免疫療法薬、GSK社との新規セフェム系抗生物質等、積極的に展開



平成22年度 業績予測

平成22年度 業績予測



平成22年度 業績予想の修正（連結）

（単位：億円）

<連結>	従来予測	修正予測	修正額	21年度実績	対前年UP率(%)	増減
売上高	2,900	2,830	△70	2,785	1.6	45
営業利益	570	540	△30	524	3.0	16
経常利益	550	515	△35	505	1.9	10
当期純利益	360	300	△60	386	△22.3	△86

注：決算期の変更により、米国子会社について、22年1月～23年3月の15ヶ月分を計上

平成22年度 業績予測



業績予想の修正（主要製品売上高）

（単位：億円）

	22年度 従来予測	22年度 修正予測	修正額	21年度 実績	対前年同期 UP率 (%)	対前年 増減
国内医療用医薬品	1,552	1,554	2	1,525	1.9	29
クレストール	300	292	△ 8	242	20.8	50
イルベタン	83	78	△ 5	38	107.4	40
サインバルタ	18	26	8	-	-	26
戦略3品目合計	401	396	△ 5	279	41.7	117
オキシコンチン	95	98	3	85	15.2	13
フィニボックス	43	40	△ 3	34	19.1	6
ディフェリン	39	30	△ 9	22	37.8	8
ピレスパ	34	30	△ 4	15	97.0	15
ラピアクタ	30	18	△ 12	6	227.2	12
戦略8品目合計	642	612	△ 30	441	38.9	171
フロモックス	190	201	11	240	△ 16.2	△ 39
リンデロン等外用	89	91	2	95	△ 3.9	△ 4
クラリチン	81	82	1	90	△ 9.2	△ 8
フルマリン	66	69	3	87	△ 20.7	△ 18
塩酸バンコマイシン	39	43	4	61	△ 30.0	△ 18
輸出/海外子会社	521	442	△ 79	491	△ 9.9	△ 49
シオノギInc.	418	339	△ 79	386	△ 12.3	△ 47
ドリベネム	54	54	0	52	3.1	2
製造受託	31	34	3	74	△ 54.2	△ 40
一般用医薬品	55	55	0	54	1.1	1
診断薬	28	28	0	29	△ 4.9	△ 1
ロイヤリティー収入	683	683	0	570	19.8	113
クレストール	655	635	△ 20	500	27.0	135
その他	30	34	4	41	△ 16.4	△ 7
合計	2,900	2,830	△ 70	2,785	1.6	45

平成22年度 業績予測



業績予想の修正(損益計算書:単体)

(単位:億円)

	従来予測	修正予測	修正額	21年度実績	対前年UP率(%)	対前年増減
売上高	2,435	2,440	5	2,285	6.7	155
(ロイヤリティー収入)	(683)	(683)	(0)	(570)	(19.7)	(113)
売上原価	27.6 (38.4) 673	27.7 (38.5) 676	3	28.6 (38.2) 654	3.2	22
売上総利益	1,762	1,764	2	1,631	8.2	133
販売費・一般管理費	47.6 1,158	47.5 1,158	0	49.8 1,138	1.7	20
販売・管理費	678	678	0	670	1.1	8
研究開発費	480	480	0	467	2.6	13
営業利益	24.8 604	24.8 606	2	21.5 492	23.0	114

平成22年度 業績予測



米国事業の取り組みおよび通期業績

(単位:百万ドル)

	22年度 従来予測	22年度 修正予測	修正額	22年度 上期実績*	22年度 下期修正予測
売上高	460 (418億円)	395 (339億円)	△65 (△79億円)	235 (210億円)	160 (129億円)
売上原価	80 (73億円)	83 (72億円)	3 (△1億円)	56 (50億円)	27 (21億円)
販売費・ 一般管理費	352 (320億円)	327 (281億円)	△25 (△39億円)	214 (191億円)	113 (90億円)
営業利益	28 (25億円)	△15 (△13億円)	△43 (△38億円)	△35 (△32億円)	20 (18億円)
特別損失	L 25 (L 22億円)	L 140 (L 120億円)	△115 (△98億円)	L 72 (L 65億円)	L 68 (L 56億円)

(*22年1~9月の9ヵ月分)

<今後の取り組み>

- 当面の事業運営においては、さらなる効率的、安定的な運営に向けて、以下の取組みを実施する
 - 拠点をNew Jerseyに集約し、一層の効率化、諸費用の削減を実施 (Atlanta:物流拠点を除き閉鎖)
 - 製造面における品質向上とコストの低減
 - 販売ポートフォリオの改善に向けたライセンス活動の積極化
- 上記の施策の実施に伴い、特別損失が発生
 - 事業拠点の統合に関連する費用 約14億円
 - 下期での販売中止予定品目について無形資産の減損 約42億円
- 自社パイプライン、サイエル社導入品の開発のスピードアップ、ライセンスインにより成長の加速を図る

平成22年度 業績予測



業績予想の修正(損益計算書:連結)

(単位:億円)

	従来予測	修正予測	修正額	21年度実績	対前年UP率(%)	対前年増減
売上高	2,900	2,830	△70	2,785	1.6	45
(ロイヤリティー収入)	(683)	(683)	(0)	(570)	(19.8)	(113)
売上原価	26.4 (34.5) 765	27.0 (35.5) 763	△2	27.4 (34.4) 762	0.0	1
売上総利益	2,135	2,067	△68	2,022	2.2	45
販売費・一般管理費	54.0 1,565	54.0 1,527	△38	53.8 1,498	1.9	29
販売・管理費	1,022	992	△30	979	1.2	13
研究開発費	543	535	△8	518	3.3	17
営業利益	19.7 570	19.1 540	△30	18.8 524	3.0	16

平成22年度 配当金

配当金について



	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
	円 銭	円 銭 (予定)	円 銭 (予定)
22年度	20.00	20.00	40.00
21年度	18.00	18.00	36.00

パイプラインの状況



開発品の進展（2010年度第1四半期決算表以降）

◆ 承認取得

- ラピアクタ[®]（ノイラミニダーゼ阻害薬、注射）：
インフルエンザ感染症（小児）
 - 日本：承認 2010年10月
 - 小児においても、成人と同様、1回の投与で通常のインフルエンザウイルス感染症に対する十分な効果と確実なコンプライアンスが期待できる
 - 使用症例の全例を対象とした使用実態、安全性の情報を収集し、現時点で新たな安全確保対策は必要ないと判断されたことから、使用患者の全数把握は終了し、報告書を厚生労働省に提出
- KAPVAY[™]（クロニジン塩酸塩、選択的 α 2受容体アゴニスト、経口）：
注意欠陥多動性障害（小児）
 - 米国：承認 2010年9月



開発品の進展（2010年度第1四半期決算表以降）

◆ フェーズの進展

- S-811717（オキシコドン塩酸塩、注射）：中等度から高度の疼痛を伴う各種がんにおける鎮痛
 - 日本：申請中 2010年9月
- S-349572（インテグレース阻害薬、経口）：HIV感染症
 - グローバル：フェーズ III
- S-707106（インスリン抵抗性改善薬、経口）：2型糖尿病
 - 米国：フェーズ IIa



開発品の進展（2010年度第1四半期決算表以降）

◆ 開発品の追加

- S-265744 LAP*（インテグレース阻害薬、注射：持続性注射剤）：
HIV感染症

* Long acting parenteral formulation

➤ 米国：フェーズ I

- S-524101（ダニ特異的舌下免疫療法）：
ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎

➤ 日本：フェーズ I 準備中

◆ 開発品中止

- 米国開発品の絞込み：Pravastatin/Fenofibrate, Jenloga XR
- 開発中止：S-444823

S-349572 : Phase III 試験の概要

◆ SPRING-2 試験

- 未治療のHIV感染患者788名
- S-349572 50mg1日1回 vs. ラルテグラビル400mg1日2回
- 主要評価項目：
48週目における抗ウイルス活性をラルテグラビルと比較

◆ SAILING 試験

- 抗HIV薬治療経験者でインテグラーゼ阻害薬未治療のHIV感染患者688名
- S-349572 50mg1日1回 vs. ラルテグラビル400mg1日2回
- 主要評価項目：
48週目における抗ウイルス活性をラルテグラビルと比較

ライセンス契約

◆ S-524101（ダニ特異的舌下免疫療法）

- Stallergenes社(仏)から導入
- ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎治療薬
- 有病者数:3,000万人以上（日本）
- 特徴
 - 投与開始4ヶ月目から効果を発揮し、投与終了1年経過後も効果を維持
 - 皮下注射で行なわれる既存の特異的免疫療法におけるリスクである全身性のショックが大幅に軽減され、安全で利便性が高い
- フェーズⅠ準備中（日本）
- スギ花粉によるアレルギー性鼻炎を適応とした特異的舌下免疫療法薬について Stallergenes社と共同研究を開始

◆ グラム陰性菌セフェム

- 塩野義が開発中のグラム陰性菌に対する、新規セフェム系抗生物質に関する共同研究・開発・販売契約を、GlaxoSmithKline社(英)と締結
- 多剤耐性緑膿菌に加え、出現頻度の増加が報告されている多剤耐性アシネトバクターや大腸菌、肺炎桿菌にも強い抗菌活性を示す

国際産学連携

◆ スウェーデンと国際産学連携活動協定の締結

● 合意内容

- スウェーデンの研究組織のシーズと塩野義製薬の創薬技術および創薬ニーズのマッチングを行い、合致したものについて共同研究を行うなどの協力的な研究関係の確立
- 国際的な人材育成を目的とした、スウェーデンの研究組織との人材交流

● 産学連携におけるグローバル化のさらなる加速

パイプラインの状況（2010年11月時点）



パイプラインの状況（2010年11月時点）





End of File